令和6年11月26日　令和6年度第3回県立学校長会　大石教育長挨拶

様々な学校行事をはじめ、周年行事、全国・近畿大会等、2学期の御対応、ありがとうございました。先日、近畿ブロック町村教育長会の研修に参加し、何年振りかで法隆寺を訪問しました。案内をしてくださったのが斑鳩町文化財活用センターの方で、その説明が大変面白く、ついつい多くの質問をしながら、時間があっという間に過ぎました。発掘の技師として採用された方だそうで、黙々と文化財を掘られるイメージの発掘技師の方の話術が、失礼ながら思いのほか素晴らしく、御自身のことも伺うと、教員免許をもっておられると仰っていました。「ブラタモリ」にも出演された方のようで、なるほどお話が上手なはずだと腑に落ちました。そして、授業もこうあるべきだと思いました。授業者の話を一方的に聞くのではなく、聞いているともっと知りたくなって次々に質問したくなる、その質問、生徒とのやりとりで授業が更に深まる。家に帰ってから自分でもどんどん調べたくなる、関連する本を読んでみたくなる。

質問がたくさんあると授業が思ったように進まなくなる場合もあるので、できるだけコントロールした方が楽だと思われる方もいるかもしれませんが、それはやはり面白い授業とは言えないと思います。生徒が静かな授業は一見落ち着いた良いもののようで、その実、生徒は他のことを考えていたりすることもあります。何よりも面白い授業をすることが肝心だと私は思っており、ICTの活用もそのものが目的なのではなく、授業が面白くなるための効果的な手段としての活用が望まれます。

面白い授業、よい授業をするということは、生徒とのよい関係を築くのに大変重要です。授業では教科書に書いてある、あるいはネットで調べれば分かるような内容を味気なく話し、生活面になると生徒の納得が得られないようなことでも強い調子で指導するようでは、よい関係は築けません。生徒とのよい関係は、保護者の信頼にもつながります。市町村の教育長会の直前、『ぐりとぐら』や『ももいろのきりん』、映画「となりのトトロ」のオープニング曲「さんぽ」の作詞をされたことでも知られる児童文学作家の中川李枝子さんの訃報に接し、お話をしたのですが、中川さんは保育士として働きながら童話の創作を始められ、その作品は親も子も笑顔になることをイメージして書かれたそうです。中川さんはインタビューで、「保育士は新しい子どもが入園するとすぐに信頼関係を結ばないと、保育がうまくいかない。だから一生懸命話しかけたり、抱いてみたり、何とか仲良くなりたいと思うのだが、その子と仲良くなるには、その子が一番好きな人を自分も好きになればうまくいく」とおっしゃっています。では、子どもは誰が好きかというと、まぁ当時の時代背景もありますが、お母さんが一番好きなのだと。だから朝、子どもが来たら「あら、今日のお洋服、ステキね。誰に着せてもらったの？」と話しかける。「ママ」と言ったら、「いいママね～」と言う。するとうれしそうに笑う。ママを褒めちぎる。そうすると子どもとの関係はすでに良好になっているのだと。あの先生の授業は面白い、あの先生はよい先生だと、生徒から日常聞いていらっしゃる保護者とは、直接お目にかかる前でも

信頼関係を築くことができるように思います。

昨今、保護者と学校との関係が難しいという報道もありますが、教員はよい授業をすること、そして、生徒はもちろん、保護者と学校が互いを信頼し、親が子を育てるのは当たり前、先生が子どもを教えるのは当たり前と言うのではなく、保護者のこれまでの子育ての労苦や教員の努力を互いに慮って、敬意をもって接することができれば、と願っています。

順次、各学校にお邪魔して授業や施設を見せていただいています。お忙しい中、御対応いただき感謝申し上げます。日程の都合でまだの学校がありますが、訪問させていただいたいずれの学校もそれぞれの教育にしっかりと取り組んでいただいておりますし、課題もお聞かせいただき、内容を担当課にも伝えています。何より、見ていて生徒が楽しそうだとこちらもうれしくなります。行って初めて分かることもありますので、次年度以降も年に一度はお邪魔しようと考えています。

ただ、その魅力は中学生や保護者、中学の先生方に十分に伝わっているかは疑問です。今年は県PTA協議会の御依頼もあって学校説明会を実施しました。私としては、実施方法の更なる改善を指示していますが、各学校でも、例えば中学生がよく見る TikTok で学校を紹介し、ホームページの閲覧につなげるなど、新しい取組を始めていただいています。

県内の中学 3 年生およそ 1 万人、ある高校の学科の募集人員が 80 人だとして、率にして 0.8%、125 人に1人しか対象にならない、3クラスに 1 人行くか行かないかという学科に担任の先生に関心をもっていただくには、それなりの努力や工夫が必要です。では多くの生徒が志望する普通科はどうかというと、これも簡単ではありません。コースや国・県教委の事業もありますが、「家が近いから」、「友達が行くから」、「学力に見合っていると言われたから」以外に選んでもらう要素、魅力は何か。

山下知事から 11 月 12 日の定例記者会見で、県立学校の空調設備を従来の計画より前倒しで整備するとの発表がありました。トイレの洋式化・乾式化に続き環境整備が進むことになります。私達も教育内容で学校の魅力化に取り組んでいかなければなりません。各学校でも考えていただいていることと思いますが、必要なら指導主事も派遣しますので、御用命ください。

高校は、こんな生徒に来てほしいというだけでなく、生徒に来てもらうにはどうしたらよいかを真剣に考えなければならない時に来ています。ニーズがないとなれば対応が求められます。中学校の校長会とも話し合いを重ね、一旦教育委員会で議決されている高校入学者選抜基本方針に、昨日の定例教育委員会で二度目の改定を行い、学力検査、調査書のほか、実技検査に加え、面接や作文でも実施できるようにしました。入試の機会は一本化されましたが、受検生の負担を考慮することで、従来特色選抜を実施していた学校・学科が、授業料が無償化され、受験科目の少ない私立高校との比較においても選んでもらえるようにと思っています。8年度入試について再度の御検討となり、お手数をおかけします。御検討の結果を伺った上で、中学生にとって分かりやすい制度とするため、最終的には教育委員会で判断しますの

で御理解願います。

　2学期末の成績処理や来年度に向けての準備等、気を緩められない時期です。校長先生方御自身を含め、先生方の健康管理に御留意いただくとともに、先生方とのコミュニケーションを取りながら、事務局各課や関係機関と連携して業務を進めていただきますようお願いします。